

シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策 (5)

ーアメリカシロヒトリー

富山県林業技術センター林業試験場

中山間地域資源課長 西村 正史

この季節、庭木や街路樹として植栽されているサクラなどの緑化木の葉が急に少なくなり、最後には丸裸になってしまって、大騒ぎすることがあります。これはアメリカシロヒトリの食害によるものです(写真の右下)。この害虫は、戦後アメリカからの物資の輸送に伴って日本に侵入しました。戦後60年になりますが、なぜかこの害虫は山間部には侵入することはできず、市街地特有の害虫として多くの市民に不愉快な思いをさせています。

いつ頃発生するか

富山県では蛹で越冬し、5月下旬から6月上旬にかけて1回目の成虫が発生し、交尾後すぐに卵をまとめて葉に産み付けます(写真の左上)。ふ化した幼虫は巣の中で過ごしますが(写真の右上)、大きくなると離ればなれになって生活します(写真の左下)。この時期に葉を食害しますが、その期間は6月上旬から7月中旬頃までです。十分葉を食害した幼虫は樹木の樹皮の裂け目あるいは地上に降りて石の隙間や落葉層などでマユをつくり、その中で蛹化します。2回目の成虫は7月下旬から8月上旬にかけて発生し、産卵します。幼虫は8月中旬から9月下旬にかけて再び葉を食害します。9月下旬から蛹へと変化して、蛹の状態越冬します。

どのような樹木を加害するか

幼虫は主に落葉広葉樹の葉を食害します。寄主範囲は非常に広く、北米、ヨーロッパ、韓国、日本で報告された植樹は、針葉樹や裸子植物を含めると、320属30種以上であると云われています。しかし、この虫が好きな属は、ドロノキ属、ヤナギ属、

クルミ属、クワ属、フウ属、スズカケノキ属、サクラ属、ミズキ属、カキ属などです。

どのようにして防除をするか

出来るだけ、農薬を使わないで防除することを心がけましょう。そのためには、この虫の生態を良く理解することが大切です。ふ化したばかりの幼虫は塊の状態で葉を食べているので(写真の右上)、その部分とその周辺が部分的に枯れたような状態となり、よく目立ちます。このような状態の枝を高枝バサミで切り取って足で踏みつぶしましょう。

この時期を逃すと幼虫の食欲は旺盛になり、農薬の助けを借りる必要があります。ホームセンターに行くとアメリカシロヒトリ用の薬剤を購入し、使用してください。なお、この虫には毒はありませんから、安心してください。



写真 アメリカシロヒトリ (左上が産卵中の雌、右上がふ化直後の幼虫、左下が大きくなった幼虫、右下が被害木)